

北部呉語の授受構文にみられる介詞の史的变化

三木 夏華

(京都大学大学院)

以苏州为中心的北部吴语中有两种给与句，一种使用“辣”字，另一种则使用“拨”字。目前“拨”字句在大部分地域取代了“辣”字句，与此同时双宾句的句法形式和功能也产生了变化，其原因在于“辣”与“拨”二者意义上的差异；“辣”相当于普通话的“在”，用以表示动作到达的处所，“拨”相当于普通话的“给”，用来引进交付或转递的接受者。本文使用18世纪至20世纪初期的资料，来讨论双宾句的演变过程，并对其句法功能扩大的原因进行深入的考察。

1. はじめに
2. 授受構文の枠組
 - 2.1. L式授受構文
 - 2.2. P式授受構文
 - 2.3. PL式授受構文
3. L式授受構文からP式授受構文への移行
 - 3.1. 移行年代
 - 3.2. 移行に伴う語法上の变化
4. 東南方言全体における授受構文との比較
5. 現在の授受構文の意味特徴
6. 結論

1. はじめに

中国語において、普通话の“给”に相当する事物の受領者を導く介詞を用い、授与に関する内容を表す構文を「授受構文」と定義する。授受構文の構造、及びそこに用いられる介詞の形態には、方言により極めて大きな地域的差異を認めうる事が、すでに吉川雅之（1999）などにより示されてきた。蘇州及びその周辺に分布する北部呉語の場合、18世紀の文献資料では「存在する」の意味の動詞から派生した“辣”[laʔ]を用いる授受構文が多数を占めていた。ところが、19世紀に入ると「与える」の意味の動詞から派生した“拨”[pəʔ]を用いる授受構文が形成される。更に、この二つの構

文の間には“撥辣”[pə? la?]を用いる構文も存在する。“辣”を用いた構文をL式授受構文、“撥辣”を用いた構文をPL式授受構文、“撥”を用いた構文をP式授受構文と呼ぶことにする。本稿では18世紀から20世紀初頭の呉語の文献資料を通し、L式からPL式、そしてP式授受構文への変化について機能や意味の面から考察し、その上で現在の上海方言の調査に基づき、現在の授受構文の用法、形式について明らかにしたい。本稿で用いた主な文献資料は以下の10種類である。

- ①沈蕢漁四種曲（沈起鳳¹⁾著。古香林藏板）略称“沈”。
- ②綴白裘新集合編（乾隆42年校訂重鐫。鴻文堂增輯。1987年、台湾学生書局善本戲曲叢刊影印本）略称“綴”。
- ③繡像芙蓉全伝（陳遇乾著。道光16年重刊本²⁾）略称“芙”。
- ④John Macgowan, “A Collection of Phrases in the Shanghai Dialect,” *Journal of the Shanghai Literary and Scientific Society*, No.1, 1858, Shanghai 略称“Mac”。
- ⑤繡像文武香球（文西堂藏板。同治2年刊本）略称“文”。
- ⑥海上花列伝（韓邦慶著。1892～94年刊行。1982年、人民文学出版社排印本）略称“海”。
- ⑦馬太伝福音書上海口音（1895年、上海美華書館）略称“馬太”。
- ⑧馬可伝福音書上海口音³⁾（1904年、上海美國聖經会）略称“馬可”。
- ⑨九尾亀（張春帆著。1906～1910年刊行。1991年、中国近代小説大系、百花洲文芸出版社排印本）略称“九”。
- ⑩土話指南（1908年、上海土山湾慈母堂）略称“土”。

これらの資料から引用した用例の訳文は、便宜上、普通話に逐語訳したものであり、普通話として語法上正しくないものも含まれる。

また、本稿で使用する記号は以下の通りである。

V：動詞 DO：対格の目的語 IO：与格の目的語

L：“辣”に代表される、L式授受構文に用いられる介詞。同系（声母[l-]）の語形を表記した“拉”、“来”等も含む。

P：“撥”に代表される、P式授受構文に用いられる介詞。同系（声母[p-]）の語形を表記した“本”、“不”、“把”等も含む。

PL：“撥辣”に代表される、PL式授受構文に用いられる介詞。同系の語

形を表記した“拨拉”“本拉”等も含む。

2. 授受構文の枠組

この節では先に述べた三種の授受構文（L式、P式、PL式）の形式について簡単に紹介しておく。

2.1. L式授受構文

この構文で用いられる介詞“辣”は、現在蘇州及びその周辺地域の呉語では[lɑʔ]、[lɔʔ]等と入声の語形で現れる。18世紀から20世紀後半の呉語資料では“拉”、“来”の文字で表記され、舒声で読まれていた可能性がある。本来は例文1)のように普通話の動詞“在”に相当し、「ある」、「存在する」を意味するが、介詞としての機能も持ち、動作の結果到達する場所や方向を導く（例文2、3参照）。

- 1) 侬个作场拉啥地方？ — 侬个作场拉后门大街上（土 p.22）
（你的作坊在哪儿？ — 我的作坊在拉后门大街上）
- 2) 第个鱼安拉鱼篮里秤秤看有几好分量（Mac p.91）
（这个鱼放在鱼篮里，秤秤看有多重）
- 3) 第只船因为风潮搁在拉海滩上（Mac p.8）
（这条船为了风潮搁住在拉海滩上）

“辣（拉、来）”を用いる授受構文は2種類あり、それぞれをL1、L2式と名づけると以下のように分類できる。

L1：V + L + IO

（DOを含まない例や、処置文、受動者主語文の形式上、DOが動詞の前に出される例が多い。）

- 4) 人对依讨，要拨拉伊（人家向你讨，要给他）（馬可 5 章）
- 5) 担两部车子分拉侬两个人（担＝把）（土 p.75）
（把两辆车子分给我们两个人）
- 6) 一根扁担交拉你（一根扁担交给你）（沈・《才人福》16回）

L2：V + DO + L + IO

- 7) 侬要发三百钱轿钱拉伊拉（你要发三百块轿钱给他们）（Mac p.40）
- 8) 勿要多话，就付银子拉我（不要多说，就付银子给我）（土 p.20）
- 9) 难道认真叫我寄信拉王公子弗我？（沈・《伏虎韜》9回）

(难道我很诚意地寄信给王公子也不成?)

2.2. P式授受構文

この構文で用いられる“拨”[pəʔ] (異表記“本”、“把”)は、前述したように本来「与える」の意味の動詞で、普通話の“给”に相当する。

10) 陆里来几花洋钱去拨俚? (哪来这么些洋钱去给他?) (海14回)

11) 辛俸拨依八块洋钱, 衣裳末另外再拨依 (Mac p.41)

(辛俸给你八块洋钱, 衣服呢另外再给你)

“拨”は介詞として事物や伝達の受け手を導き、授受構文に用いられる。

P式授受構文は3種類あり、それぞれP1、P2、P3式と名づける。

P1: V + P + IO

(L1式と同様、DOが構文中に含まれないか、動詞の前に出される例が多い。)

12) 倪靠仔耐格福氣, 嫁拨仔耐 (我靠着你的福氣, 嫁給了你)

(九76回)

13) 我就拿个二少爷交代拨耐 (我就把这二少爷交给你) (海57回)

14) 我跟子大爷来烧香个, 香烛交本拨 (笑2回)

(我跟着大爷来烧香的, 香烛交给你)

P2: V + DO + P + IO

15) 请侬分点油拨侬 (请分点油给我们) (馬太25章)

16) 到倪搭来, 托耐刘大少带声信拨俚 (九6回)

(到我这里来, 托你刘大少捎个口信给他)

P3: V + P + IO + DO

17) 同伊住拉一个天井里, 有一个邻舍, 是个爽快人, 听见伊勿管妹妹个事件, 气极, 就教伊妹妹走过来, 借拨伊一石米, 还有几两银子 (跟他住在一个天井里, 有一个邻居, 是个爽快人, 听见他不管妹妹的事件, 气极, 就叫他妹妹走过来, 借给他一石米, 还有几两银子)

(土 p.76)

18) 说四老爷该个疮, 就是倪搭过拨俚毒气 (海58回)

(说四老爷这个疮, 就是我们这儿过给他毒气)

2.3. PL 式授受構文

前節に挙げた文献上には次の二種類が見られる。

PL 1 : V + PL + IO

- 19) 下一个月, 来个六十包洋布味, 付拨拉别个客人 (土 p.50)
 (下一个月, 来六十包洋布呢, 付给别的客人)
- 20) 个个银子换拨拉~~那~~之罢 (这个银子换给你们吧) (土 p.90)
- 21) 唻, 龙观保, 悟到底阿肯拿故个香球送本拉我里小姐? (文6回)
 (喂, 龙观保, 你到底肯把这个香球送给我们的小姐吗?)

PL 2 : V + DO + PL + IO

- 22) 舜因个儿子不肖啉, 传位拨拉禹 (Mac p.177)
 (舜由于儿子不肖, 传了帝位给禹)
- 23) 落雨拨拉有义气啉没义气个人 (馬太 5 章)
 (下雨给有义气和没义气的人)

3. L 式授受構文から P 式授受構文への移行

2 節で述べた三種の授受構文がいつ、どのように「L 式→PL 式→P 式」と移行していくのか明らかにするため、1 節で挙げた文献資料を用いて以下の表にまとめた。資料①～③、⑤、⑥、⑨は蘇州方言が用いられ、④、⑦、⑧、⑩は上海方言資料であるため、ここでは方言別に二種類に分けて作成する。表内の数字は用例数である。また、L3、PL3 式は資料上に存在しないので、括弧で括る。

表 1 [蘇州方言資料]

		① 乾隆 年間	②綴 1777 年	③美 1836 年	⑤文 1862 年	⑥海 1892～ 94 年	⑨九 1908～ 10 年
L1	V + L + IO	17	33	30	4	10	—
L2	V + DO + L + IO	11	27	9	4	—	—
(L3)	V + L + IO+ DO	—	—	—	—	—	—
PL1	V + PL + IO	—	1	3	11	1	1

PL2	V + DO + PL + IO	—	—	—	—	—	—
(PL3)	V + PL + IO + DO	—	—	—	—	—	—
P1	V + P + IO	—	2	1	4	38	30
P2	V + DO + P + IO	—	—	—	—	6	7
P3	V + P + IO + DO	—	—	—	—	3	—

表2 [上海方言資料]

		④ Mac 1858年	⑦馬太 1895年	⑧馬可 1904年	⑩土 1908年
L1	V + L + IO	8	8	8	49
L2	V + DO + L + IO	7	8	7	14
(L3)	V + L + IO + DO	—	—	—	—
PL1	V + PL + IO	5	4	1	7
PL2	V + DO + PL + IO	2	2	1	2
(PL3)	V + PL + IO + DO	—	—	—	—
P1	V + P + IO	—	2	3	9
P2	V + DO + P + IO	—	6	3	7
P3	V + P + IO + DO	—	2	—	2

また、上記の表からL式、PL式、P式の使用頻度を計算すると以下のようになる（表内の数字はパーセントである）。

	蘇州方言資料						上海方言資料			
	①	②	③	⑤	⑥	⑨	④	⑦	⑧	⑩
L式	100	95	90	35	17	0	68	50	65	70
PL式	0	2	7	48	2	3	32	19	9	10
P式	0	3	3	17	81	97	0	31	26	20

以上のデータから導き出される結果を移行年代と語法上の変化に分けて論述する。

3.1. 移行年代

蘇州方言において、資料①から③ではL式授受構文の使用頻度が圧倒的に高く、それに対し、P式授受構文はほとんど現れない。一方、資料⑥、⑨においてはP式授受構文に用例が集中し、その反面L式は使用頻度が減少している。よって、L式授受構文は19世紀前半まで多く用いられたのに対し、P式授受構文は19世紀末から主流となったことが明確に分かる。PL式は資料①、②では用例がほとんど無いが、資料⑤において頻度が最も高い。恐らく、PL式はL式からP式へ移り変わる過程に生じたものと推定され、過渡期である19世紀中頃に最も勢力が強かったことが窺える。

一方、上海方言では資料④においてP式は全く見られず、資料⑦から現われ始めている。更に19世紀後半の上海方言の文法書 Joseph Edkins, *A Grammar of Colloquial Chinese as exhibited in the Shanghai Dialect, Second Edition*, (Shanghai: Presbyterian Mission Press, 1868)にもP式は載せられておらず、L式のみが出現する。よって、蘇州方言と同様、19世紀末からP式授受構文への交替が始まったと推測できる。ただし、上海方言では19世紀末から20世紀初めの資料においてP式の使用頻度は2割から3割に止まり、それは蘇州では19世紀末以降、P式が圧倒的に多かった事実と大きく異なる。周知の通り⁴⁾、上海方言は19世紀中期以降、様々な方言の影響を受け発展してきたが、授受構文のL式からP式への移行は、蘇州及び周辺のP式使用地域の影響によるものと考えられる⁵⁾。

また、各資料のジャンル、登場人物による差異にも配慮してみると、次のような可能性が予想される。

a) 上記の蘇州方言資料は主に小説、戯曲であり、方言は会話の部分のみに用いられているが、登場人物による表現の差はないだろうか。

b) 上記の上海方言の文献資料は外国人により編纂された会話文集と聖書の翻訳本であるが、会話文集では学習を念頭に置いた偏りのある編集がなされていないか。聖書では地の文と会話文とに違いは見出せないか。

調査の結果、a)、b) どちらにおいても顕著な差異は見出せなかった。例

えば、⑥の『海上花列伝』では同じ蘇州方言でも都市部を代表する男性達の方言と地方出身の芸者の方言とに大きく二つに分けられるとされるが⁶⁾、授受構文の介詞に関しては特に違いは認められない。地の文と会話文との差や作品のジャンルの違いによるも影響も無かったと思われる。

3.2. 移行に伴う用法、構文形式の変化

前節で用いた10種類の資料の用例からL式授受構文からP式授受構文への移行に伴う用法の変化について分析する。まず、動詞に着目すると、L式授受構文で使われるのは‘送’、‘賣’、‘交’、‘撥’、‘还’、‘借(貸す)’などの授与を表す動詞に限られる(例4～9参照)。動詞が授与以外の意味を表す場合は⁷⁾、普通話の“替”に相当する介詞、“搭(忒)[tɑʔ]”、“替[tʰi]”を用いて表現できるが(例24、25)、“辣(拉/来)”を使う例は一貫して見られない。

24) 我要依忒我买两个帽子(我要你替我买两个帽子)(Mac p.87)

25) 我就差人到各处去, 替依寻个只马(土 p.40)

(我就差人到各处去, 替你找这个马)

これは“辣(拉/来)”は本来の機能が動作の到達点を導くことであった為、移動の意味を含む授与動詞とは結びついて、それ以外の意味の動詞とは組合すことが難しかった為と考えられる。

一方、P式授受構文で用いられる動詞も授与を表すものが大半を占めるが、19世紀後半以降の文献からは授与以外の意味を持つ動詞を用いる例が見られ始める。

26) 方大少, 阿肯买拨倪介?(九6回)

(方大少, 你肯不肯买给我?)

27) 倪收末收仔耐五千洋钱, 阿要写张借票拨耐?(九38回)

(我收也收了你五千洋钱, 要不要写张收据给你?)

この現象から推測しうるのは、“辣(拉/来)”は事物の移動の到達点を導く機能以上に発展しなかったのに対し、“拨”は19世紀末以降、動詞本来の意味により「事物を受領者に与える」から「利益を受益者に与える」へと機能を拡大させることが可能になり、授与動詞以外の動詞と組合せて「…の為に～してあげる」の意味を表すことが出来るようになったことであ

る。

次に構文形式に目を向けると、L式ではL1式としてDOを動詞の前に出し受動者主語文にするか、処置文を用いて表現することしか出来ず、“V + L + IO + DO” (L3式) は存在しない (表 1、2 参照)。ここで現代の上海方言を例にとり、受領者を場所詞に差し替えた“V + L + 場所詞 + 目的語”の形式で成立するか否か調査してみた。

28) 我拿格件衬衫放辣衣柜里 (我把这件衬衫放在衣柜里)

28') 格件衬衫放辣衣柜里 (这件衬衫放在衣柜里)

28'') ? 我放辣衣柜里格件衬衫

上海方言の話者に拠れば、28)、28') は成立するが、28'') は不自然であるという。動詞が移動の意味を含む場合、重点は常に動作の到達点に置かれるので、28)、28') の様に場所詞は話題の提起となる“格件衬衫”の後に置くのが自然である。しかし28'') では場所詞の方が前に置かれるので不自然な印象を与えると推測できる。授受構文に話題を戻すと、L3式において事物の受領者を表す間接目的語は、動作の到達点であるという点で“V + L + 場所詞 + 目的語”の場所詞と同じ機能を果たしている為、L3式は存在しないと考えられる。

一方、P式には用例数は多くないが、19世紀末からP3式“V + P + IO + DO”が現れる。

29) 一节勿曾到, 用拨俚二千多 (海 24 回)

(一节还没到, 用给你二千多)

30) 白送拨俚一千洋钱为仔啥? (海 43 回)

(白送给他一千块为了什么?)

31) 主, 依托拨我个五千 (主啊, 你交给我五千) (馬可 25 章)

中には例 29) のように授与以外の意味の動詞と共に用いる例も見られ、先に述べた“拨”の受益者を導く機能 (例 26、27 参照) が、P3式でも有効であることを示している。更にP3式はP1、2式に比べ“拨”と動詞との繋がりが強まり、「V + “拨”」というより、「V 拨」として一つの複合動詞に近い機能を持ち、その結果、DO、IOの二つの目的語を後置することが可能となったと推測できる。

4. 東南方言全体における授受構文との比較

ここまでは呉語における授受構文の形式変化を通時的に分析してきたが、次に中国語の諸方言、特に東南方言の授受構文との比較を通し、地理的な分布状況から呉語の授受構文の形式がどのように位置付けられるかを考察したい。以下、存在、或いは移動を表す動詞から派生し、動作の到達点を表す介詞を用いる授受構文をすべて「L式」とし、授与を表す動詞から派生して事物の受領者、受益者を導く介詞を用いる授受構文をすべて「P式」とまとめて論じる。

[贛語] L式：江西省永修、星子、南昌、吉安（以上、“得”を使用）（劉綸鑫1999, 720）。安義（“到”を使用）（万波1997, 240-242）。

P式：江西省波陽、樂平（以上、“把”を使用）、東鄉、臨川、南豐、宜黃、黎川（以上、“擺”を使用）（劉綸鑫1999, 462, 633）。

[客家語] P式：江西省上猶（“把”を使用）、南康、安遠、于都、龍南、全南、定南（以上、介詞“拿”を使用）、井岡山（“分”を使用）（劉綸鑫1999, 462, 633）。広東省梅県（“分”を使用）（林立芳1997, 208）、増城（“界”を使用）（王李英1998, 10）。福建省連城（“分／拿”を使用）（項夢冰1997, 360-367）、建寧（“界”を使用）（李如龍、張双慶1992, 451）。

[湘語] L式：湖南省益陽（“得”を使用）（徐慧2001, 258-261, 291-293）、新化（“来”を使用）（羅昕如1998, 302）。ただし、益陽はP式（“把”を使用）、PL式（“得把”を使用）も用いる（崔振華1998, 287-290）。

P式：湖南省邵陽（儲沢祥1998, 193）、瀏陽（夏剣欽1998, 235）、祁陽（李維琦1998, 120-121）、（以上、“把”を使用）、東安（“□[du]”を使用）（鮑厚星1998, 229-230）。

[粵語] P式：香港（“俾”を使用）（Takashima and Yue 2000, 1-52）。

L式：広東省広州（“过”を使用）（高華年1980, 220）

ただし、Takashima and Yueに拠れば、香港を中心とする広東語では1930

年代までは“过”を用いる構文が主に用いられ、“过”は元來動作の方向を示すと述べられていることから、過去において香港はL式を用いていたと言える。また、L式から“俾”を用いるP式への移行は1930年代から1990年代にかけて行われたとされる。

32) 遗落个妻过细佬 (1924)

(…left his wife to his younger brother)

33) 斟杯茶俾我 (Pour me a cup of tea) (1954)

更に同論文では、“过”から“俾”の移行段階に“俾过”を用いる例もあったという記述があり、この用例は先に述べた呉語のPL式に相当する表現と考えられる。

34) 个心就想让俾过朱亚虎

(Wanted to yield [the offer of position] to Zhu Yahu.)

35) 咁就赐俾过我哋 (Then conferred to us…)

[贛語] P式：福建省福州 (“乞”を使用) (陳沢平 1997, 117-119) 福清 (“乞”を使用) (馮愛珍, 1993, 131-132)、漳平 (“与”を使用) (張振興, 1992, 107-108)。広東省汕頭 (“分/乞”を使用) (施其生 1997, 144-146)。

[呉語] P式：江蘇省高淳、丹陽 (“把”を使用)、呉江、無錫、海門 (“撥”を使用)、常州 (“八”を使用)⁸⁾、蘇州 (“撥”を使用) (劉丹青 1997, 13-14)。ただし、海門はL式 (“勒”を使用)、蘇州はPL式 (“撥勒”を使用) も用いる。浙江省杭州 (“把”を使用) (錢乃榮 1992, 109)、蕭山 (“板”を使用) (大西博子 1999, 167)、温州 (“丐”を使用) (潘悟雲 1997, 67-72)。ただし、杭州はPL式 (“把勒”を使用) の例も見られる。

まず、授受構文の分布状況に着目すると、P式授受構文は呉語も含め、どの方言地域においても勢力が大きいことが分かる。一方、L式の使用地域は江西省の北西部から湖南省、広東省にかけて点在するにとどまる。各方言の授受構文の発展経過が明らかになっているわけではないので、断定は出来ないが、3節で述べたL式からP式への交替現象は、東南方言全体で

P式が優勢になりつつある状況下で進行してきた可能性がある。また、PL式は香港や湖南省益陽に代表される様に、P式とL式の両方を用いる地域に存在するケースが多い。P式からL式への移行段階においてPL式が存在するという点においても呉語と共通する。

次に構文の形式に着目すると、L式授受構文はどの方言でも介詞の後に目的語を一つしか後置できず、目的語を二つ後置する形式、つまり、L3式の用例は先に列挙した資料の中で見つけることは出来なかった。一例として、湖南省新化の“来”を用いるL式の例文を挙げておく。

L1式：送来其（送给他） 还来图书馆（还给图书馆）

L2式：送封信来你（送封信给你）

寄张贺年片来同学（寄张贺年片给同学）

L3式：*送来其一本书（送来他一本书）

一方、P式授受構文では介詞の後に目的語を二つ後置できる方言が多く存在する。

[湖南省邵陽]

P2式：借一块钱把你（借一块钱给你） 奖支笔把你（奖支笔给你）

P3式：借把你一块钱（借给你一块钱） 奖把你支笔（奖给你支笔）

[福建省連城]

P2式：送一本书分/拿佢（送一本书给他）

P3式：送分/拿佢一件毛衣（送给他一件毛衣）

恐らく、L式では「L＋間接目的語（動作の到達点）」でまとめ、介詞Lと直接目的語とは結びつき難かったのに対し、P式では「P＋間接目的語（動作の到達点）」のまとめを保ちながらも、“動詞＋P”で一つの複合動詞としても機能することができる為に多くの方言ではP3式が可能であると考えられる。これは3.2.で示した呉語におけるP式の過去の発展経過と相通じる。

5. 現在の授受構文の意味特徴

2節で過去の文献資料を用いて分類したL式、P式二種類の授受構文は、現在ニュアンスや意味の違いによりどのように使い分けられているのだろうか。ここでは呉語の中の上海方言に焦点を当て、14人のインフォーマン

ト⁹⁾に対する聞き取り調査を通し、各形式の授受構文が有する意味特徴について考察する。なお、この章で用いた例文は、特に表示のあるもの以外はインフォーマントによる作例である。

まず、L式授受構文についてだが、銭乃栄（1997, 263-264）に拠れば、動詞が「与える」の意味を表す“拨”である場合のみ現在でもL式で表すことが可能だという（例36、37参照）。

36) 依拨两张票子拉张老师（你给两张票子给张老师）

37) 我拨几张样子拉依，拨依参考，依照伊做好了

（我给几张样子给你，给你参考，依照它做好了）

しかし、筆者の調査の中では動詞が“拨”であるか否かに係らず、L式を用いると答えたインフォーマントはいなかった。現在では「“拨” + DO + “辣” + IO」に代わり、「“拨” + DO + “拨” + IO」の表現を用いるのが普通である。

36') 依拨两张票子拨张老师（你给两张票子给张老师）

そのため、以下はP式、PL式授受構文を中心に普通話との対照を試みながら考察する。

[P式授受構文]

P1式：“拨”は授与の意味の動詞だけではなく、取得、製作等を表す動詞と共に使うことができる。

38) 五十块我就借拨了小王（五十块我就借给了小王）

39) 格本词典老好，我买拨依（这本词典很好，我买给依）

40) 格只菜我烧拨依吃（这个菜我烧给你吃）

受動者主語文では動詞の前に置かれた名詞が話題の提起として強調され、例えば38)では「50元なら私が王さんに貸してあげた（“五十块”を強調）」、40)では「この料理だったら私が作って食べさせてあげましょう（“格只菜”を強調）」というニュアンスを持つ。

P2式：P1式同様、授与以外に取得、製作等を示す動詞と共に使われる。

41) 老师推荐了格本书拨我（老师推荐了这本书给我）

42) 伊买张票子拨我（他买张票子给我）

43) 伊写了一篇诗拨我（他写了一篇诗给我）

また、P2式に相当する普通話の「V + DO + “給” + IO」は、言い切りの形式で文が後続しない限り已然の事態を表し、直接目的語に量詞をつけなければ成立せず、例えば“他买了票给我”で言い切ることは出来ない。一方、上海方言では未然の事態を表すことも可能であり、その場合、量詞をつけなくても成立し、これはP1、P3式においても共通である。

42') 伊买票子给我 (他买票子给我)

44) 菜我烧拨依 (菜我做给你)

45) 我送拨依词典 (我送给你词典)

ただし、已然の事態を表す際は一般的に量詞は必要である。

45') 我送拨了依一本词典 (我送给了你一本词典)

沈家煊 (1995, 367-380) によると、普通話では文中の動詞が已然の事態を示し一つの事件 (event) を表す場合、目的語に量詞を付けて有限性を加える必要があるとされる。上海方言においても45')に見られるようにこの現象は共通である。逆に動詞が未然の事態と捉えられる場合、量詞は省くことが可能と考えられ、そのため42'), 44), 45) は成立すると推測できる。このような量詞と事態の関係は過去の資料の用例 (8, 9参照) からも確認でき、現在の上海方言に限らないことが分かる。

P3式：朱德熙 (1979, 83) は普通話の授受構文「V + “给” + IO + DO」では、動詞は授与を示すものに限られると述べているが、上海方言のP3式「V + “拨” + IO + DO」では、動詞は授与の意味だけでなく、取得、製作を示すものでも成立可能である。

46) 我还拨依钥匙 (我还给你钥匙)

47) 伊买拨了我一部脚踏车 (他买给了我一辆自行车)

48) 姆妈结拨了我格件绒线衫 (妈妈打给了我这件毛衣)

P3式はP2式に比べ、受領者である間接目的語が強調される意味になり、例えば、46) は「私は確かにあなたに鍵を返します」、47) 「彼は (他の人ではなく) 私に自転車を買ってくれた」、48) 「母は他の誰のためでもなく、私の為にこのセーターを編んだ」というニュアンスを持つ。更に、P3式では間接目的語に不特定の受領者を置くことはできず、これは間接目的語を特定化、強調するニュアンスと相容れない為だと思われる。

49) *中国人辣辣中秋节有送拨人月饼个习惯

(中国人在中秋节有送给人月饼的习惯)

また、動詞が取得の意味を持つ場合、間接目的語は受領者を意味し、“拨”を挿入しない文と意味が相反する。

50) 伊买拨了我一部脚踏车 (他买给了我一辆自行车)

(“伊” = 「授与者」)

50') 伊买了我一部脚踏车 (他买了我一辆自行车)

(“伊” = 「取得者」)

動詞が「取得」と「授与」の両方の意味を有する場合も、“拨”の有無により、使い分けることが可能である。

51) 我借拨了伊格本书 (我借给了他这本书) (“我” = 「授与者」)

51') 我借了伊格本书 (我借了他这本书) (“我” = 「取得者」)

ところで、関光世 (2001, 158) は普通話の「V + “給”」式は時制に関する情報が無い場合、已然の事態と理解される傾向が強く、これは“給”が事物の受領者への到達を顕在化する働きが強い為だと説く。一方、上海方言の「V + “拨”」式では、同様の条件の場合、未然の事態と理解される傾向が強く、已然の事態を表す場合は完了のアスペクトマーカ―“了”を動詞に後置させるのが一般的である。

52) 我交拨依格本书 (我交给你这本书) [未然]52') 我交拨了依格本书 (我交给了你这本书) [已然]

これは上海方言の“拨”は受領者、受益者を強調する機能が強く、上述の通りP3式では特にその傾向が顕著であるが、その反面、普通話に比べ事物の到達を顕在化する働きは弱いためだと考えられる。

[PL 式授受構文]

過去の文献の中に見られるPL式授受構文は、L式やP式と比べても特に意味の違いは見出せない。また、現在の上海方言についても、幾つかの報告で¹⁰⁾P式とPL式について「拨」の後に“辣”を付け加えることが可能」と述べられているだけで、特に意味の違いについて記述されていない。しかし、筆者の調査ではPL式は已然の事態を表す際にのみ用いられ、未然の事態は表せないという意見が大半を占めた。

53) 你还三十块洋钿拨我, 好不好? (你还三十块钱给我, 好不好?)

* 你还三十块洋钿拨辣我, 好不好?

更に PL 式は P 式に比べ、受領者に対する動作の到達確認の意味が強いという意見もあった。例えば、54) は 54') に比べて「確かに私に返した」というニュアンスが強いという。

54) 我还三十块洋钿拨辣伊 (我还三十块钱给他)

54') 我还了三十块洋钿拨伊

筆者が推測するに、L 式の消滅に伴ない、PL 式と P 式とで機能分担が行われていると思われる。つまり、L 式から P 式への移行段階では PL 式はその中間に位置し、P、L 式両構文と機能の違いは無かったが、現在“辣(拉)”を用いなくなり、“拨”を一般的に使用するようになったため、“拨辣”は存在意義が薄れ、特に授与動作の到達実現を顕在化したい時のみ“拨”に“辣”を後接させると考えられる。

また、大半のインフォーマントの意見では、PL 式で用いられる“拨辣”の“辣”はもはや介詞ではなく、完了の助詞の“了(勒)”であるという。本来、完了のAspect “了(勒)”[lɔ?]と介詞“辣”[lɑ?]は発音が異なるが、銭乃荣(1988, 213)にも述べられているとおり、現在の上海方言では両者の発音の区別がなくなりつつある。

55) 书摆辣[lɔ?]台子高头 (书摆在桌子上)

56) 吃了[lɔ?]饭再去 (吃了饭再走)

その為、PL 式「V + “拨辣” + IO + DO」、[V + DO + “拨辣” + IO]と P 式に完了の助詞が後接する表現「V + “拨了(勒)” + IO + DO」、[V + DO + “拨了(勒)” + IO]との区別がつかなくなりつつあり、その結果、最近では P 式に完了の助詞が付いていると見なす場合が多いと考えられる。

57) 伊送拨了我一只礼物 = 伊送拨辣我一只礼物

(他送给了我一只礼物)

この意見が正しいかどうかは現時点で実証できない。しかし、ここで“辣”を完了と見なす原因には、“拨辣”の“辣”は授与構文の介詞としては基本的に余剰であるという意識が前提になっていると考えられ、現在、上海方言の授受構文は P 式がほぼ主流の座を占めていることが窺える。

6. 結論

以上の分析をまとめると以下のようなになる。

- ①北部呉語においてL式授受構文は19世紀前半までよく用いられ、P式授受構文は19世紀末から主流となった。また、L式で使用可能な動詞は授与動詞のみで、介詞“辣”は受領者のみを導くことができた。一方、P式では授与以外の意味の動詞を用いることができるようになり、介詞“撥”は動詞との結び付きを強めて複合動詞に近い働きを有し、IO、DOの二つの目的語を後置することが可能になることが分かった。
- ②東南方言全体の授受構文に視点を広げると、P式優勢の状況やPL式の生じる環境などに呉語と類似する点があり、呉語における授受構文の交替現象と東南方言全体の授受構文の分布状況に関連性を見出すことができる。
- ③現在の呉語の一例として上海方言を調査したところ、L式は消滅しP式が主に使用されていること、P1～3式は強調すべき対象や目的語の性質により使い分けられていることが見いだされた。

<注>

- 1) 刊行年不明。筆者沈起鳳は1741年出生、1802卒。
- 2) 初刻本刊行年は不明である。
- 3) ⑦、⑧共にローマ字本だが、引用例文は漢字表記に改める。
- 4) 胡明揚(1978, 203)に拠れば、浙江、江蘇省出身の移民が上海の人口の大きな割合を占め、彼等の言語が上海方言に大きな影響を与えたとされる。
- 5) 寧波でも19世紀後半以降、P式授受構文を用いていた可能性が強い。例えば、『新約書翻寧波土話』(1868年、英国聖書公会)では、授受構文で用いられる介詞は全て“撥”で統一されている。
- 6) 宮田一郎(1985, 28)による。
- 7) ‘買’等の取得を表す動詞、‘做’等の創作を表す動詞、及びその他の動詞が含まれる。
- 8) 『江蘇省志・方言志』(江蘇省地方志編纂委員会、1998年、南京大学出版社)P. 111、511、546参照。
- 9) 出身地域は上海市区出身者12人、郊区出身者2人で、学歴は全員大学卒業、年齢は20代4名、30代2名、40代4名、50代2名、60代2名、性別は男性6名、女性8名である。調査方法は筆者の用意した普通話の例文を提示し、それを上海方言に翻訳してもらった。
- 10) 許宝華、湯珍珠(1988, 457)、錢乃榮(1997, 264)参照。

＜参考文献＞

- 鮑厚星 1998. 『東安方言研究』。湖南教育出版社。
- 陳沢平 1997. 「福州方言的動詞謂語句」, 李如龍・張双慶 1997, 105-120 頁。
- 儲沢祥 1998. 『邵陽方言研究』。湖南教育出版社。
- 崔振華 1998. 『益陽方言研究』。湖南教育出版社。
- 馮愛珍 1993. 『福清方言研究』。社会科学文献出版社。
- 高華年 1980. 『広州方言研究』。商務印書館。
- 胡明揚 1978. 「上海話一百年来的若干变化」, 『中国語文』第 3 期。199-205 頁。
- 李如龍・張双慶 1992. 『客贛方言調查報告』。厦門大學出版社。
- 李如龍・張双慶 1997. 『中国東南部方言比較研究叢書【動詞謂語句】』。暨南大学出版社。
- 李維琦 1998. 『祁陽方言研究』。湖南教育出版社。
- 林立芳 1997. 「梅県方言的動詞謂語句」。李如龍・張双慶 1997, 195-211 頁。
- 劉丹青 1997. 「蘇州方言的動詞謂語句」。李如龍・張双慶 1997, 1-20 頁。
- 劉綸鑫 1999. 『客贛方言比較研究』。中国社会科学出版社。
- 羅昕如 1998. 『新化方言研究』。湖南教育出版社。
- 宮田一郎 1985. 「《海上花列伝》の言語」, 『東洋研究』73 号。23-44 頁。
- 大西博子 1999. 『蕭山方言研究』。好文出版。
- 潘悟雲 1997. 「温州方言的動詞謂語句」。李如龍・張双慶 1997, 8-75 頁。
- 錢乃榮 1992. 『杭州方言志』。好文出版。
- 1997. 『上海話語法』。上海人民出版社。
- 1988. 「上海話虚詞“laʔ”和“ləʔ”」, 『吳語論叢』。上海教育出版社。205-213 頁。
- 関光世 2001. 「“V 給”文の意味特徴に関する考察」, 『中国語学』248。153-167 頁。
- 沈家煊 1995. 「“有界”与“無界”」, 『中国語文』第 3 期。367-380 頁。
- 施其生 1997. 「汕頭方言的動詞謂語句」。李如龍・張双慶 1997, 136-152 頁。
- 万波 1997. 「安義方言的動詞謂語句」。李如龍・張双慶 1997, 229-246 頁。
- 王李英 1998. 『增城方言志』。広東人民出版社。
- 夏劍欽 1998. 『瀏陽方言研究』。湖南教育出版社。
- 項夢冰 1997. 『連城客家話語法研究』。語文出版社。
- 許宝華・湯珍珠 1988. 『上海市區方言志』。上海教育出版社。
- 徐慧 2001. 『益陽方言語法研究』。湖南教育出版社。
- 吉川雅之 1999. 「二重目的語文〔双賓句〕」, 『中国における言語地理と人文・自然地理 (5)』。青山学院大学。7-11 頁。
- 張振興 1992. 『漳平方言研究』。社会科学出版社。
- 朱德熙 1979. 「与動詞“給”相關的句法問題」, 『方言』第 2 期。81-87 頁。

Takashima, Ken-ichi and Yue, Anne O. 2000. "Evidence of Possible Dialect Mixture in Oracle-Bone Inscriptions". *In Memory of Professor Li Fang-kuei: Essays on Linguistic Change and the Chinese Dialects*, Taipei: Institute of Linguistics, Academia Sinica, Seattle: University of Washington, 1-52.

<付記>

本稿は日本中国語学会第51回全国大会（2001/11/4 於東京大学）における口頭発表をもとに、加筆修正したものである。発表に対して懇切な御助言を下さいました諸先生方、及び3名の査読者の先生方に心より感謝申し上げます。